

関西・大阪21世紀協会が2021年度より実施している「学校アートプログラム」は、小学校にアーティストを派遣して友だちとともに創造する体験を通じて、子どもたちの人間力や思考力などを育むことを目的としています。2023年度までに約1700名の児童がこのプログラムを体験し、4年目を迎える2024年度は、泉佐野市、泉南市、岬町に加え、新たに岸和田市・熊取町と連携協力に関する協定を締結し、合計6校で実施しました。

また、学校の枠を超えた取り組みとして、美術館との連携によるプログラムを構築し、大阪市で試験的に実施しました。今後もさまざまな自治体・団体などのご理解とご協力を得ながら創造的な活動を広げていきます。

岸和田市立山滝小学校 3、4年生

南アフリカの音楽体験

● 講師：ソコシ・アフリカ

自由に太鼓を叩いたり、アフリカンダンスを踊ったりする体験をしました。基本のリズムを全員で、ソロパートを個人で叩く練習をする中、太鼓を叩くだけでなく踊り出す子どもも現れ、自由な時間を楽しみました。初日は隣接の幼稚園児や全校児童に向けてミニライブを行い、最終日は保護者の方々にこれまでの成果を披露し、多くの人々が体験しました。



泉佐野市立第三小学校 4年生

インドネシアの音楽(ケチャ)体験

● 講師：ハナジョス

「ちゃ、ちゅ、ちょ」が含まれる言葉から、ケチャに取り入れたい言葉を3つ選び、オリジナルのケチャを作りました。言葉ごとにグループを分けて実践し、本場のケチャのように、手を挙げる、手を前に出す、倒れるなどの動きをつけました。最終日には、自分たちで調べたインドネシアの国や文化の発表と練習したケチャを地域の方々の前で披露しました。



熊取町立南小学校 6年生

五感で描く小さな世界

● 講師：山本理恵子

水彩絵の具の技法「にじみ」「かすれ」「スパッタリング」など9つの技法を、それぞれ小さな画用紙に描き、思い浮かぶオノマトペを当てはめた技法標本を作りました。また、用意されたモチーフから1つ選び、習得した技法を使ってモチーフの一部を拡大して描きました。描いたものを色画用紙に貼り、周りに感じたオノマトペを添えて作品に仕上げました。



熊取町立西小学校 5年生

インドネシアの音楽と影絵芝居

● 講師：ハナジョス

インドネシアの伝統的な音楽ガムランと、影絵芝居ワヤンのチームに分かれて、国語の授業で取り上げられた『竹取物語』を題材に、3クラスがそれぞれの舞台制作を行いました。台本を基にセリフや演出を考え、オリジナルのアイデアを出し合いながら、演技や演奏を行いました。最終日は3クラス合同で発表し、それぞれの工夫や違いなどを意見交換しあい、楽しみました。



泉南市立一丘小学校 2、3年生

教室に潜む形でつくるスタンドガラス模様

● 講師：野原万里絵

学校の中にあるさまざまな形(天井のシミ、机、筆箱など)を探し、タブレットで撮影しました。そこから浮かび上がる輪郭を基にして、スタンドガラスの模様を作りました。さまざまな工程を経て、最後は黒の画用紙に形を置いてスタンドガラス模様を完成させました。模様を作るための工程では、筆以外に手を使うなど、自由に色を塗りました。



岬町立多奈川小学校 5年生

廃材を使ったキーホルダー作り

● 講師：石田真也

作品の素材となる廃材を全員で学校の近くの海辺で集め、洗い、色ごとに分類しました。アーティストが用意した木片に廃材を付け、キーホルダーにし、地域のイベント「福祉&多奈川フェスタ」で販売しました。自分たちの思いを記した商品タグに加え、展示パネルも作成しました。フェスタでは自分たちの作品を熱心に説明し、地域の方々とふれあいました。



ミロの絵から聞こえる音

● 実施小学校：大阪市立育和小学校 6年生 ● 講師：橋爪皓佐

国立国際美術館と連携し、アーティストが関わりながら「鑑賞(インプット)し、考え、表現(アウトプット)する」体験を通じて、鑑賞を深め、自分なりの表現を発見することを目的としました。1日目は美術館で鑑賞をし、2日目は鑑賞の体験を基に、小学校で表現に繋がるワークショップを実施しました。



～美術館連携プログラム～

広がる学校アートプログラム

当協会は、学校アートプログラムの基本的な枠組みを活用して他の自治体・団体にプログラムを提供するなど、取り組みを拡大しています。今年度は昨年度に引き続き、泉南市とフィリピン共和国ダバオ市との姉妹都市協定の締結を契機に展開している国際交流プログラム文化交流事業、阪南市の海洋教育にプログラムを提供しました。また、賛助会員である和泉チエン株式会社様の従業員およびそのご家族向けのプログラムも実施しました。

▶ 国際交流事業への協力(泉南市)

- 実施小学校：泉南市立一丘小学校 4、6年生 ※交流先／フィリピン日系人会国際学校 4、6年生

フィリピンの小学生からワークショップの素材となる動画を送ってもらい、それを基にワークショップを実施しました。実施の様子やフィリピンへの質問などを動画で撮影し、ビデオレターのように動画を交換し合い交流しました。

フィリピンのフルーツを描こう!(4年生)

- 講師：尾柳佳枝

フィリピンのフルーツの名前や色・形などの情報を基に、想像して絵を描きました。動画で正解を知った後、「バリンピンの断面を2つ」や「マランの白い実を5つ」など「指示カード」を作成、楽しみながら引いていき、大きさ・色・配置を各自で工夫のうえ描いていきました。絵が苦手な児童も楽しみながら作品を完成させました。



フィリピンのオノマトペを体で表現しよう!(6年生)

- 講師：阪本麻紀

フィリピンで使用するタガログ語のオノマトペ「Agh」「Kulog-kulog」などの音だけを頼りに、どのようなときに使用されるオノマトペかを想像して体で表現しました。クラスをチームに分け、それぞれのオノマトペの意味を話し合っ て表現方法を工夫しました。最後にフィリピンから送ってもらったオノマトペの動画を見て正解を知りました。



泉南市成長戦略室長

伊藤公喜さん

子どもたちが作品を通して、自分たちの感性を自由に形にしており、また、同時に自分やお友達の個性を知る機会を得ていました。本当に満面の笑顔で楽しそうに、異文化理解や多文化共生の感覚が育まれていましたね。泉南市では、令和7年度から市内のすべての小中学校でフィリピン共和国ダバオ市とのオンライン国際交流を行う予定です。貴協会の学校アートプログラムを実施できたことはとても有意義だと思っています。



フィリピン日系人会国際学校 学長

イネス・山之内・P・マリヤリさん

この度は貴重な交流の機会をいただき、心より感謝申し上げます。一丘小学校の皆様と本校の学生は、それぞれ普段は方言や公用語以外の言語を使用しており、言葉を理解する大切さと、言語を超えた交流の楽しさを実感いたしました。また、日本語科・英語科・国語(フィリピン語)科が連携した授業は、本校としても意義深い機会となりました。両学生たちが積極的に参加する様子も印象的で、またの機会を学生共々心待ちにしております。



▶ 海洋教育への協力(阪南市)

- 実施小学校：阪南市立上荘小学校 4年生
阪南市立尾崎小学校 5年生

- 講師：尾柳佳枝(上荘小学校) 高田マル(尾崎小学校)

海洋教育プログラムの一環として、アーティストの技術や感性に触れながら児童たちが自由に表現することで、自分たちの身近にある「海」について興味を持ち、主体的に関わろうとするきっかけを作りました。



▶ 従業員家族向けイベント開催(和泉チエン株式会社)

- 講師：ウッキー富士原

企業の活動や職場の雰囲気をご家族に知っていただくことを目的として、前半では会社の概要説明と従業員が普段働いている様子を動画で視聴し、職場見学を行いました。後半は、アーティストが制作した自社製品のパーツを使ったワークショップを実施しました。参加者はハンコを使ってTシャツやトートバッグに自由に模様を作り、楽しみました。家族が普段見られない職場での姿を知ること、企業の活動に触れていただき、参加者から好評を得ました。

